

白河の翼寺

第 8 2 号

令和6年12月31日

発行人：支部長 栗林正樹

※題字：白川仁一先生

※印刷：さとう総合印刷

「白川城」

西白河副支部長 大戸 祐一



私が住んでいる旭町では年に2回数十名で白川城跡の除草作業を行っている。私も地域に貢献したいとの思いもあり、退職以来、白川城跡の除草作業に参加している。

除草作業は早朝行われるので、休日の昼間白川城跡に行ってみたが、森に覆われた城跡は訪れる人もなく静寂に包まれていた。

白川城は、国により平成28年に史跡として指定を受けている。白川城は、別名「搦目城」とも呼ばれ、現在は八竜神方面からの白川城跡の案内表示や入口を示す石碑がある。白河の歴史について、学ぶ機会も少なかったので白川城について調べてみた。



白川城は、中世白河庄を拠点として陸奥の国南部を支配していた白河結城氏の歴代居城であった。阿武隈川と社川の支流藤野川に挟まれた東西に走る標高400mの藤沢山・搦目山一帯の丘陵を利用して築かれた山城である。阿武隈川に向かって半島状に突き出している丘陵に、本丸と推定される高い平坦地(南北約90m、東西80～100m)を中心として、いくつかの郭があり、北側は絶壁をなし阿武隈川に面し自然の要塞をなしていた。城正面の大手は八竜神にあり、裏面搦手は搦目であった。

下総結城朝光は、源頼朝の奥州藤原氏攻めに参加し功名を立て、文仁5年(1189)その恩賞として白河庄の地頭職を与えられ、朝光の孫の祐広が正応2年(1289)頃、下総結城より

移住して白川城を本拠としたと伝えられる。

祐広は、弟の時祐・朝泰らと共に下向し、祐広は、白河庄の南方の白河町・大沼村・米村・熊倉村・双石・舟田・板橋、盛広は、北方の富沢郷・真角・大和久・葉太・太田川村・踏瀬等、泰親は小田川村、時祐が金山村、朝泰が関旗宿、兄弟・一族がそれぞれ所領した。そのころ鎌倉幕府によって奨励されていた新田開発が展開された。

白河結城氏は、文明年間(1469～87)にその勢力の最盛期を迎えている。7代当主政朝は、文明13年、白河結城の氏神である白河鹿嶋神社前で花見の宴を兼ねた白河結城家中の連歌の会を催し、結城家中の百人の衆が集い一日一万句興行を行っている。当主政朝が「世を照らす 花や御心 神の春」と発句し、直朝が「時知るや 鼓にひらく 春の花」と詠じている。白河鹿嶋神社の南側を阿武隈川が流れ、対岸には結城氏の本拠白川城が見え、山々は桜の花に包まれ連座の衆も爛漫の花を賞でながら句を吟じたのであろう。

白河結城氏は豊臣秀吉の小田原北条氏征伐に参軍しなかったため、天正18年(1590)領地が没収され、13代300余年にわたった白河結城氏の白河庄の支配は終わった。

結城宗広公没六百年祭記念に、昭和12年9月白川城本丸跡に建立された徳富蘇峰撰文による「忠烈碑」がある。白河市愛宕町の関川寺には「結城宗広公墳墓」があり、昭和13年6月に宗広公の六百年大遠忌法要が営まれ、「結城宗広公霊廟」が落慶された。

昭和62年秋には、宗広公の没後六百五十年を迎え、関川寺で六百五十年大遠忌法要が営まれ、その記念に「結城宗広公像(ブロンズ像)」が境内に建立された。令和19年(2037)には、結城宗広公没後七百年を迎える。どのようなことが催されるのか楽しみである。

《おめでとうございます》

この度、仁科武芳先生が、福島県公立学校退職校長会より「賀寿」（満95歳）を受けられました。

また、佐藤勝三郎先生と金内啓四郎先生が全国連合退職校長会より「賀詞」（満88歳）を受けられました。併せて、瑞宝双光章（叙勲）を受章されております。

皆様のますますのご健勝をご祈念申し上げ、心からお祝い申し上げます。



仁科武芳先生 佐藤勝三郎先生 金内啓四郎先生

「佐藤勝三郎先生米寿・瑞宝双光章受章
誠におめでとうございます」

栗林 正樹

佐藤勝三郎先生は「こころやさしく、たくましく、人に感謝」を教育信条として、子供達を中心に、保護者や地域の方々に寄り添い、学校教育の充実発展に努めて来られました。

私は佐藤先生の隣に住み、35年余にわたりお世話になっております。先生は長きにわたり退職校長会の班長を務められました。また、その他、退公連、青少年赤十字なども同様に務められ、私はその後を受けて文書配布をしましたが、先輩会員の矢吹町と鏡石町との境にある三城目から泉崎村や中島村との境にある明新、松倉まで回ると約20km玄関先でちょっと話をし文書などを渡すと2時間以上かかりました。退公連、赤十字はまた全く別な方々、これらも含めるとなかなか大変でした。佐藤先生のご苦労が偲ばれました。

佐藤先生は、中学校英語教諭として矢吹中9年、泉崎中6年、白河中央中8年、英語弁論大会で多くの地区入賞、そして県大会出場する生徒を育てられました。また、矢吹中野球部監督として郡市中体連準優勝など、文武に渡って成果を上げて来られました。

そして、那倉小校長時代、中学校教育に長く携わって来た佐藤先生は、小規模校から中学校に進学して困らないよう挨拶や表現力向上の大切さを教職員と共に取り組み、三神小校長時代は子供達の命の大切さを第一に安全教育に力を入れ、その成果は平成8年度福島県学校安全優良賞受賞となって実りました。

佐藤勝三郎先生が奥様と共に益々健康長寿を重ねられますよう、心からお祈り申し上げます。

「金内啓四郎先生米寿・瑞宝双光章受章
誠におめでとうございます」

栗林 正樹

金内啓四郎先生は、教諭時代、須賀川第一小に3年間務め、体育の県研究指定を受け「6年生の『体力の極限、内面体力の醸成、創る体操』の研究」の発表では児童の姿を見た市内や県内、他県や中学校体育の先生など参観の先生方は「小学6年生でこんなこともできるのか？」と驚かれたそうです。昭和47年文部省表彰の原動力となりました。

昭和48年から白河中央中に転勤すると、体操部の部活を担当し高校や大学でも活躍する多くの選手を育て12年間務められました。私は昭和49年から4年間ご一緒させていただき、金内先生には国語科主任としてご指導いただきました。その金内先生が体操の部活を担当とはなぜ？と聞いていましたが、米寿のお祝いお届けの時、須賀川一小の実績を知り驚きました。いつも謙虚で偉ぶらず、自分からはそういうことは一切お話しなさらなかったからです。

校長としては下郷村立南小学校長、西郷村立米小学校長をお務めになられ定年退職されました。定年退職後は退職校長会の広報担当を8年間務め「白河の関守」創刊号の発行などに尽力されました。また、白河市金勝寺地区の子供達の健全育成のため「きんしょう塾」を無償で立ち上げ保護者や地域の方々の支援を頂きこの活動に対して文部科学大臣表彰を受けました。県の病院入院児童学習支援ボランティアとして、依頼に応じ何人もの児童の学習指導支援を行いました。

金内啓四郎先生が奥様と共に益々健康長寿を重ねられますよう、心からお祈り申し上げます。

「現職校長との交流会開催」

7月26日、東京第一ホテル新白河に於いて小中高校長と退職校長との交流会が開催されました。



福島県教育庁県南教育事務所長橋本美弥子様、福島県市町村教育委員会連絡協議会西白河支会理事長芳賀祐司様を来賓に迎え、現職校長34名、退職校長31名、昨年より多い参加者総勢67名で活気のある交流の時間を持つことができました。



懇談会に先立ち、大戸祐一副支部長より退職校長会の現状や活動等に関する説明を行い、退職校長会への理解と協力を呼びかけました。

懇談会は、学校現場の現状と課題について代表の校長先生方から講話をいただきました。

「泉崎第二小学校の現状と課題」

泉崎第二小学校長 笹山美紀子

創立150年を迎え「やればできる」という心意気を持ち挑戦し続ける児童の育成を目指し特色ある教育活動を展開しています。

何でも話せる職場の雰囲気、育てたい児童像の共通理解、協働的・探求的な学びの追究という泉二小の強



みを生かし、地域と連携し充実した活気のある教育活動を行っています。

今後さらなる充実をめざし、授業改善、教職員の学びの場の確保、教職員の心のゆとりの確保に取り組んでいきたいと思ひます。

「白河南中学校の取組について」

白河南中学校長 橋本美智子

開校17年目を迎えます。生徒が、保護者が、教職員が、地域の方が「南中に来て良かった」と思える学校を創るために特色を生かした教育活動を展開しています。

教職員と専門スタッフで「チーム南中」を構成し、あらゆる活動に同じ目標を持ち子どもファーストの精神で取り組みます。

異学年交流、応援団の復活等、生徒の主体的な活動が育まれると共に、先生方も成長していくのが南中の良さです。



○退職校長先生方との交流会に参加して○ 「心に残った思い出話」

三神小学校長 菊池 呂之

令和6年7月26日に「西白河支部退職校長と現職校長の交流会」に参加いたしました。

私は、今年度校長昇任をしたばかりで、たくさんの先輩方がいる中でしたので、大変緊張しておりました。参加された退職校長先生の中には、直接お世話になったり、県南域内での様々な行事や教育活動においてご指導いただいたりした校長先生方がいらっしゃり、懐かしく思いました。

私は、矢祭町出身のため東白川郡での勤務が多かったのですが、郡の行事・研修会等でご指導くださいました校長先生との懐かしい思い出話をしたことが心に残っております。

これまでお世話になった校長先生方からいただきましたご指導やご鞭撻を心に留め、自己研鑽に努めてまいります。

最後になりますが、先輩校長先生方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



「退職校長先生方の経験と知恵から学ぶ」



大信中学校長 亀田 征利

お世話になった先輩校長方から内容に富んだお話を伺う機会に恵まれたことに、心より感謝申し上げます。

先輩方が現役教員だった頃、学習指導、生徒指導、部活動への向き合い方など多くのことを学ばせていただきました。それら全てが現在の学校経営において大いに役立っていると実感しています。

交流会では、退職された校長先生方がこれまでに培われた経験と知恵を惜しみなく語って下さいました。その言葉には、お一人お一人の確固たる信念が込められていて、胸に深く響きました。退職後もなお教育への情熱を絶やさず、熱い思いを抱き続けるその姿勢に私は威厳や憧れを抱いています。

私もまた、先輩方に続く一步を踏み出そうと決意を新たにしました。今後をご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「退職校長会懇親旅行に参加して」

原 隆

11月14日午前9時、1泊2日の伊豆方面へ向けて(株)福島交通白河営業所よりバスは発車しました。私たち退職校長会西白河支部から10名が参加して総勢35名でしたが、ロングドライブへの期待に胸は大きく膨らんでいました。

東北自動車道より圏央道に入り快調に進んでおりましたが、突如、渋滞に遭遇してしまいました。しかし、運転手さんの機転の利いた計らいにより当初の予想渋滞時間より早くその部分を抜け出し、東名自動車道に入りました。そこからは快適なクルージングを味わう時間になりました。程なく、静岡県に入り第一見学地のわさび田に到着です。わさびの香りに伊豆に来たと実感した瞬間です。次に第二見学地である十国峠に向かい、急傾斜の道路を一気に駆け上り十国峠ロープウェイに乗り展望台に到着しましたが、無情にも雨の中での見学となりました。しかし、心の目でしっかりと富士山の姿を見て360度のパノラマビューをイメージして、バスに乗り込みました。今夜の宿泊場所の伊東温泉には予定

通りの時間につきました。まずは温泉で旅の疲れを流して浴衣に着替え夕食に備え、ディナータイムの開始を待ちました。今回の旅行は他の団体と一緒に食事を取るスタイルでしたが、ツアー企画会社とホテル側の配慮により、参加者のグループ毎に固まって食事ができ、私たちだけで旅行に来たようなリラックスした宴会でした。伊豆名物の山海の珍味を思う存分堪能でき、酒量も充分で至福の時間となりました。

2日は前日と打って変わり、とても良い天気になって参りました。古くは伊豆の国の一宮である三嶋大社に寄り、祈願いたしました。



ここで記念撮影をいたしました写真が本旅行の様子をよく表しております。次に昼食とミカン狩りの会場に到着して、昼食を食べ、さらにミカン狩りを楽しみました。昼食を食べただけでしたが、食後のデザートも、木から自分でもいでも食べる粋なスタイルには大満足でした。福島県と伊豆半島の気候の違いを改めて感じる場面でもありました。

さて、楽しい時間はあっという間に過ぎて、バスは帰路に就きました。予定の時間より一時間ほど早く白河営業所に着きました。2日間の楽しく有意義な時間を過ごし、無事に終了したことに感謝して解散いたしました。

《ご冥福をお祈り申し上げます》

田村賢一郎先生 令和6年10月18日ご逝去

大木 英治先生 令和6年11月12日ご逝去

《編集後記》

各種事業が滞りなく実施されました。交流会での「参加することが最高の協力」という挨拶が印象に残りました。

来年も良い年になりますように。 広報係